

2019年度を振り返って

国際交流センター長 バーチ・グレンゴリー (Birch, Gregory)

今年度、国際交流センターでは、カルガリー大学（カナダ）、東方設計大学（台湾）、カトリック大学（米国）の3つの大学と新たに学術交流協定を締結しました。これにより、カルガリー大学で英語集中講座を受講する語学研修、東方設計大学で学生交流や文化体験をする台湾文化研修の2つのプログラムがリニューアルされ、より充実したものとなりました。この2つのプログラムの効果もあり、夏休みには49名の学生が研修に参加しました。一方、27名が参加予定だった春休みの2つの研修は、1月下旬から世界規模で流行した新型コロナウイルス（COVI

D-19）の影響により残念ながら中止となりましたが、この中には、2019年度に新設された看護学部からの参加希望者もあり、海外研修の裾野の広がりを感じる事ができました。

その他の派遣事業としては、セメスター留学（1学期間の海外留学）として、カナダ4名・イギリス2名・韓国1名（1年間）を派遣し、計7名それぞれが実り多く貴重な留学生活を送りました。

受入事業としては、5月に長野県と姉妹関係を結んでいるミズーリ州から大学生と引率教員等9名が来学しました。6月には姉妹大学である韓国ハニャン女子大学実務日本語科から学生18名と教員1名が来日し、20数

2019年度海外研修プログラム実績

研修先	期間	主な研修内容	参加人数
カナダ(夏)	2019 8.31～9.15	ホームステイをしながらカルガリー大学へ通学、ロッキー山脈へ観光など	17人
韓国(夏)	2019 9.3～10	姉妹校との交流、ホームステイや文化体験、ソウル市内観光など	14人
台湾(夏)	2019 9.1～9	協定校での授業体験、フィールドトリップなど	13人
モンゴル(夏)	2019 9.2～9	小学校での交流活動、ゲル宿泊体験、ウランバートル市内観光など	5人
オーストラリア(春)※	2020 2.1～16	現地語学学校での英語学習、文化体験、ホームステイなど	中止
カンボジア(春)※	2020 2.20～26	孤児院でのボランティア、現地NPOや地雷対策施設へ訪問など	中止

※ 新型コロナウイルスの影響により中止



ハニャン女子大学セメスター留学学生・着物体験(11月29日)



インターナショナル・カフェ (12月17日)

年にわたる姉妹校関係をさらに強いのとしました。ハニャンからは、春学期3名・秋学期4名のセメスター留学生も受入れ、授業の履修をとおりして学生との交流を深めました。

これ以外でも、2019年度はインターナショナルカフェなどキャンパス内でも多くの国際交流事業を行うことができました。2020年度も、さらに充実した国際交流の機会を提供していきたいと思っています。

派遣

＜カナダ語学研修レポート＞

「はつきり主張することの大切さ」

国際コミュニケーション科 1年 湯本珠莉愛

私が今回の研修で「大切だ」と感じたことは、しっかりと自分の意見を主張することです。

事前研修のときからYes/Noをはっきりと言うこと、と勉強していきましたが、実際にカナダで過ごしてみて本当に大事だと感じました。ホストファミリーのご夫婦が中国出身の方で、食事をす



カルガリー大学にて

る際の文化として食事を残すことが当たり前なので、家でも自分のお皿にまだ食事が残った状態でごちそうさまをしていました。ただ私は日本人の癖が抜けず、自分のお皿に盛っていたものは食べきろうと頑張っていました。そうするとファミリーの方は足りないと思い、どんどんお皿に盛ってくださいました。そこで、正直に「お腹いっぱいだ」と伝え、文化の違いも伝えました。するとファミリーの方は、頂いたものを食べきる日本人の文化を理解してくれ、その後はちょうど良い量のご飯で食事をすることができました。

この経験から、自分の意見をはつきりと言うことがとても大切だとあらためて気づくことができました。これから異文化交流をする際は相手の意見を聞き、自分の意見も主張していきたいと思いました。(2019年8月31日～9月15日)

＜セメスター留学レポート＞ 現地で学べる環境に感謝

心理コミュニケーション学科 2年 早川 明来

私が滞在した街、カナタベリーはロンドンから電車で1時間半の所にあります。中世の街並みが残っており、カナタベリー大聖堂をはじめセント・オーガスティン修道院跡、セント・マーティン教会と、街の中に3つの世界遺産があります。



ハロウィンパーティー

授業は教科書、新聞、試験教材やBBCニュースを題材に進められました。内容は私にとって難しいトピックばかりですが、皆積極的に意見を言うので、国ごとに違うさまざまな考えを知ることができ、自分も負けずに頑張ろうという気持ちになれました。

自国のこともたくさん聞かれます。スポーツや裁判など私自身興味のないことでも、答えるために調べるので精一杯。毎日復習の時間が足りないくらいでしたが、地道に英語力を伸ばしていきけるよう、また現地の人との関わりや現地にいるからこそできることを大切に過ごしてきました。さまざまな経験を得られた学びの環境に感謝しています。(2019年9月～2020年1月)